

慶應義塾大学大学院 文学研究科 後期博士課程

史学専攻 民族学考古学分野

3つのポリシー

【ディプロマ・ポリシー】

史学専攻民族学考古学分野では、課程修了時に学生が身につけるべき能力として以下のものを定め、学則に従って修了要件を満たし、博士論文審査に合格した学生についてはこの能力を身につけた者と認め、博士（史学）の学位を与える。

1. 民族学考古学分野において定められた博士論文執筆資格審査に合格した上で、民族学・考古学研究、あるいは関連分野の研究を内容とした博士論文を執筆し、定められた手続きに則った審査に合格し、その論文を通じて、当該領域の研究に独創的な寄与を成し、その発展に大きく貢献することができる。
2. 研究対象とする分野について、最新の研究動向や研究課題に精通し、包括的で深い専門知識を有し、日本語および英語で国際的に成果を発信してその分野の研究に独自の貢献をすることができる。
3. 民族学・考古学の研究を通じて人類文化の歴史的、地理的特性を深く理解し、その全体的あるいは個別的課題を発見し、それらを解決するための高度なリサーチ能力、プレゼンテーション能力を身につけている。また、そのように高度な批判的分析能力を備えた社会人、研究者、教育者として、社会の発展および課題解決に独自に貢献することができる。

【カリキュラム・ポリシー】

史学専攻民族学考古学分野では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的として以下のカリキュラムを編成する。

1. 民族学・考古学、あるいは関連分野の領域の研究に独創的な貢献をする博士論文の執筆を可能とするため、指導教員が担当する特殊研究科目を中心に科目を履修するとともに、指導教員が中心となって個別論文指導を行い、高度なリサーチ能力と課題発見能力、日本語及び英語による高度な論述力を養う。民族学考古学分野においては、専攻が定める「博士の学位申請および論文審査に関する手引き」に則って博士論文執筆資格審査に合格し、また論文提出までに同「手引き」に定められた論文公刊の条件を満たしている必要がある。
2. 専門とする領域において最新の研究動向や研究課題に精通し、専門的研究を通じて

学会への独自の貢献をするために必要な高度なリサーチ能力、課題発見能力、一次資料分析能力、議論構成力を養成するため、特殊研究科目を設置する。研究成果を学会や専門誌で発表することを目的として具体的な指導を行う。

3. 民族学・考古学研究に関わるフィールド調査能力を高めるために、教員たちによって組織される国内外の調査に中心的に参加することを推奨する。また、その調査成果の記録、発表にも携わることで、資料の記録、分析、発表能力を高め、独自の調査を計画、遂行できるようにする。分野によっては、国際的な環境において研究活動を行うことができるようになるため、留学を含めた研究計画を立てられるように環境を整える。

【アドミッション・ポリシー】

史学専攻民族学考古学分野では、次のような資質を持つ学生を求めている。

1. 自分の研究領域および関連分野について、高度に専門的な知識を持っている。
2. 学術的研究計画を自ら立案し、博士論文につながる独創的かつ具体的な計画を論理的に提示することができる。
3. 民族学・考古学の一次資料を正確に記録、分析し、批判的に検討する高度な能力を有している。また、日本語、英語、および当該地域言語の文献を正確かつ批判的に読む十分な読解力を有している。
4. 国際的な研究活動を展開できるだけの、日本語および英語による学術的論述能力と発表能力を有している。
5. 博士課程修了後の社会人、研究者、教育者としてのキャリアについて、積極的かつ具体的に考えている。